

「2色プリント」始めよう

2色で、もっと伝わる もっとコミュニケーション



RISOGRAPH **MD**

ナビゲートブック

EASY
LOW COST
HIGH SPEED

お問い合わせ先

本体・オプション製品に関しては
お客様相談室 ☎ 0120-534-881
受付時間(月～金 10:00～12:00, 13:00～17:00 土・日・祝日・当社休業日を除く)
 当社製プリンタドライバ/ソフトウェアの操作に関しては
サポートセンター ☎ 0120-229-330
受付時間(月～金 9:00～17:30 土・日・祝日・当社休業日を除く)

 **理想科学工業株式会社**

〒108-8385 東京都港区芝5-34-7田町センタービル 電話(03)5441-6666

ホームページ <http://www.riso.co.jp/>

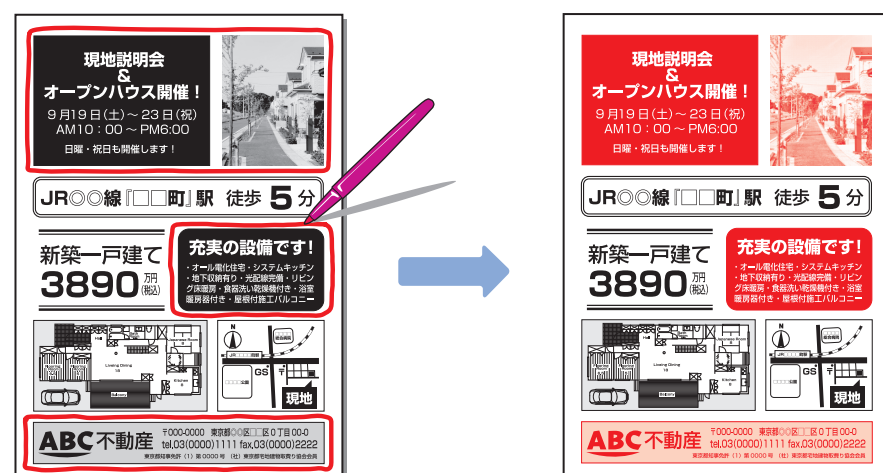
紙もデータも2色でプリント

黒1色でプリントしている、いつものチラシ。

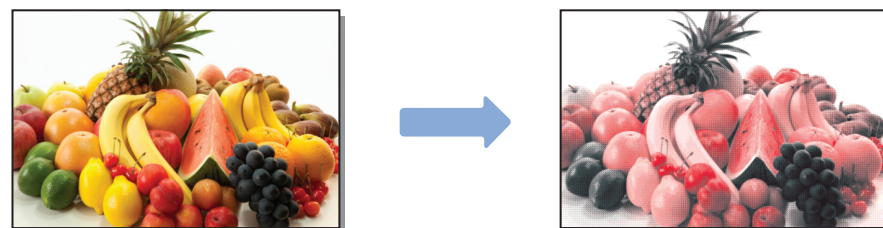
たとえば、いつもの黒にもう1色加えるだけで人目を惹きつける
訴求力の高いチラシに仕上がります。

MDシリーズでは、紙の原稿でも、パソコン内のフルカラーのデータでも、
かんたんに素早く2色プリントできます。

●+● モノクロの原稿に、推奨のペンで囲む。
たったこれだけで2色プリントできます。



●+● フルカラーのデータも、プリンタドライバの設定で
2色プリントになります。



CONTENTS

紙原稿からの２色プリント ～かんたん分版～	P.3
原稿に直接、囲みを書き入れる【エリア指定分版】	P.4
直に書き込めないときは【トレース分版】	P.4
２色で作った原稿を使う【赤色分版】	P.5
白黒プリントに手書きした原稿を使う【書き込み分版／書き込み分版（インク）】	P.5
タッチパネルでも囲んで色分けできます【デジタイザ分版】	P.6
写真が含まれている原稿を使う【エリア指定分版】【トレース分版】	P.6
「かんたん分版」のしくみと原稿作りのコツ	P.7
原稿の濃度で分版する場合	P.7
エリア指定で分版する場合	P.9
分版と筆記具の関係	P.10
かんたん分版 操作のながれ	P.11
「かんたん分版」と「ドリル印刷」を組み合わせる	P.13
パソコンからの２色プリント	P.15
プリンタドライバの設定	P.16
原稿作りのポイント（２色プリント）	P.17
「マニュアル分版」の上手な使いかた	P.19
分版条件の設定	P.19
パラメーター選びのポイント	P.21
その他の分版	P.22
分版ページ合成	P.22
ドリル印刷分版	P.22
予備知識／付録	P.23
本機は、「孔版」印刷機です。	P.23
色を変えるときは、ドラムを換える	P.23
原稿を作るときは、印刷用紙よりも少し小さめに	P.24
付録「マニュアル分版」のパラメーターリスト	P.25

 **注意** 「安全上の注意」はMD 6650W/6650/5650/5450取扱説明書に記載してあります。ご使用前に必ずお読みください。

紙原稿からの2色プリント ～かんたん分版～

かんたん分版とは

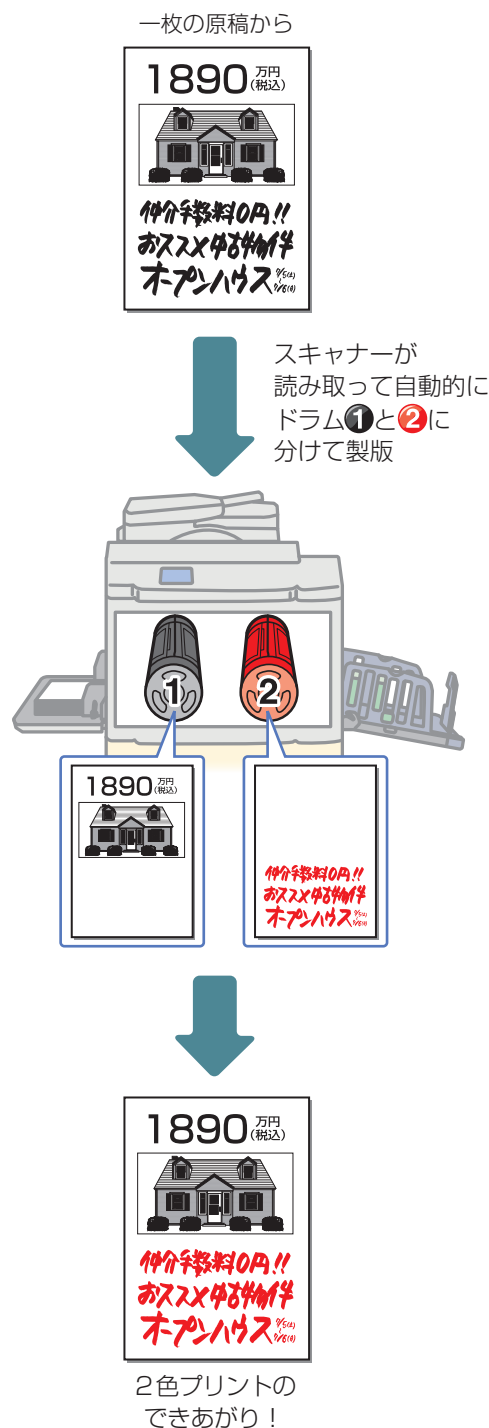
本機は、異なる色のドラムを2本使って、2色プリントをしています。

2本のドラムで2色プリントをするには、印刷する部分を色ごとに分けて、それぞれのドラムに製版する必要があります。そのためには通常、ドラム①用の原稿とドラム②用の原稿を別々に用意しなければなりません。

本機は、わざわざ別々に原稿を作らなくても、1枚の原稿から2本のドラムに、原稿を分けて製版できる「かんたん分版」機能を搭載しています。

「かんたん分版」には、あらかじめ原稿を2色で作ったり、色分けしたい部分を囲んだりするなど、いくつかの色分け指示のしかたがあります。

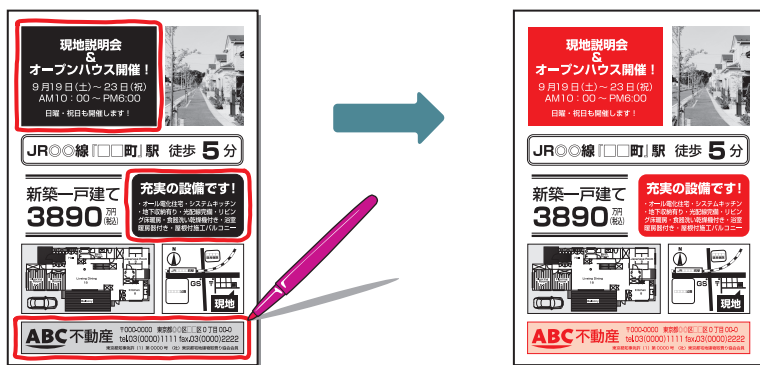
「かんたん分版」は、様々な原稿に対応できるように6種類用意されています。次ページより、各分版で準備する原稿について紹介していますので、お手持ちの原稿が使える分版方法を見つけてください。



原稿に直接、囲みを書き入れる【エリア指定分版】

1色で作られた原稿の色分けしたい部分を、推奨のペンを使って囲みます。

「エリア指定分版」は、囲み(エリア)の外側と内側とが色分けされるように原稿を作ります。



囲った内側の部分が、ドラム②でプリントされます。

推奨のペンで色分けしたい部分を囲む

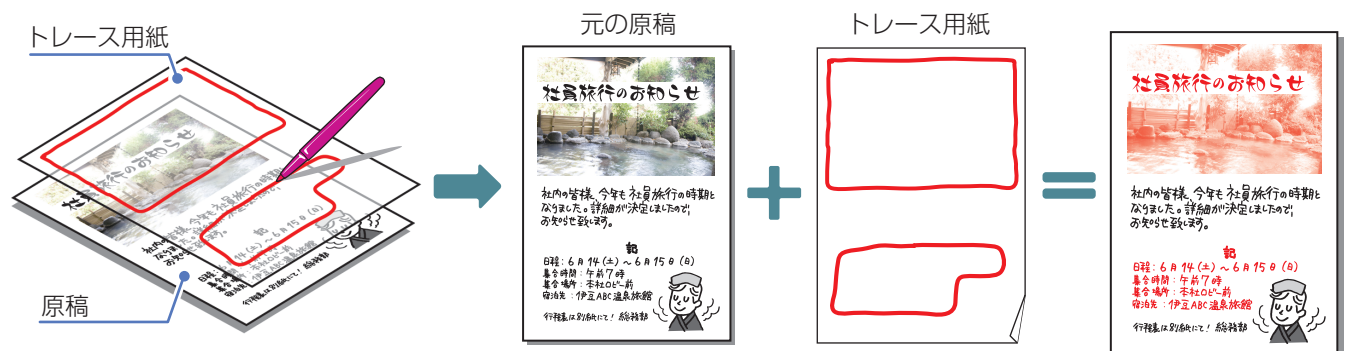
参考 直に原稿へ書き込みができない場合は、「トレース分版」をお使いください。

直に書き込めないときは【トレース分版】

「書き込み分版」で色分けしたいのだけど、この原稿は大切だから書き込めない…。

そんなときは原稿の上に1枚紙を重ね、色分けしたい部分を推奨のペンで囲みます。

「トレース分版」は、重ねた紙面上の、囲みの外側と内側とが色分けされるように原稿(2枚)を作ります。



原稿にトレース用紙を重ね、推奨のペンで色分けしたい部分を囲む

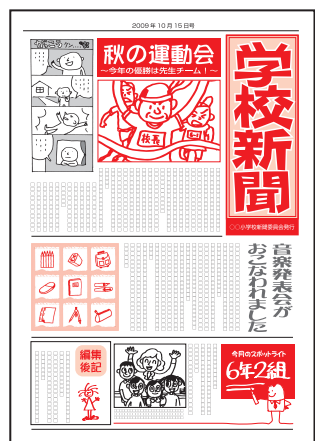
トレース用紙に書いた囲みの内側の部分が、ドラム②でプリントされます。

参考 ライトテーブルや窓ガラスを活用しましょう！

トレース分版をする際、原稿に紙(トレース用紙)を重ねて囲みを書くときは、ライトテーブルや窓ガラスを活用することで、原稿の内容が透けて見やすくなります。

2色で作った原稿を使う【赤色分版】

あらかじめ2色で原稿を作りましょう。パソコンが得意ならワープロソフトなどを使って原稿を2色で作り、プリントして2色の紙原稿として利用します。「赤色分版」は、原稿の黒い部分と赤い部分とが色分けされるように原稿を作ります。



原稿は2色で作る

原稿の赤い部分が、ドラム②でプリントされます。



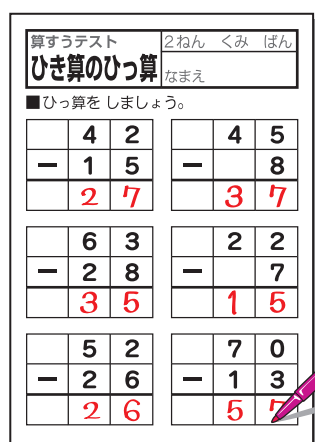
パソコンで原稿を作る際、たとえばカラーパレットなどで「赤」を選ぶときは、「純粋な赤」またはそれより薄い色を選んでください。



白黒プリントに手書きした原稿を使う【書き込み分版／書き込み分版(インク)】

白黒プリントに、推奨のペンや鉛筆で手書きします。

「書き込み分版／書き込み分版(インク)」は、白黒プリントの印字された部分と、手書きで追記した部分とが色分けされるように原稿を作ります。



推奨のペンや鉛筆で手書きする

推奨のペンや鉛筆で手書きした部分が、ドラム②でプリントされます。



「書き込み分版」には次の2種類があり、白黒プリントの印字がトナーかインクかで使い分けてください。

書き込み分版

コピー機やレーザープリンターなどの白黒プリントを原稿にしたとき

書き込み分版(インク)

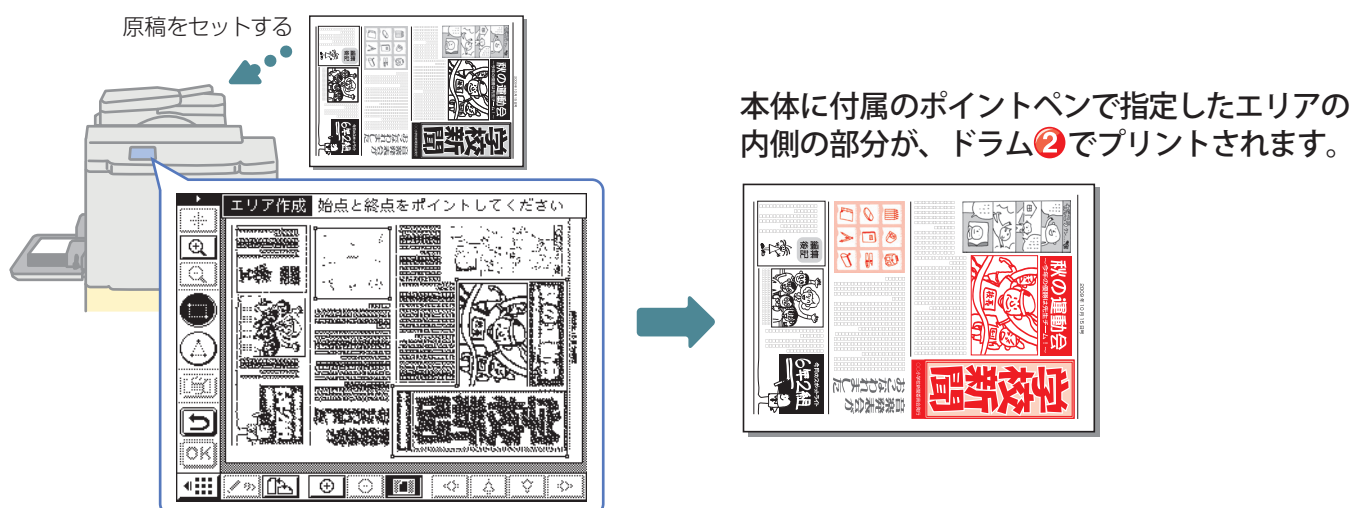
当社製の印刷機やインクジェットプリンターでの白黒プリントを原稿にしたとき



オフセット印刷されたドリル(テスト問題)などは、「書き込み分版」を使ってください。

タッチパネルでも囲んで色分けできます【デジタイザ分版】

本機のスキャナーで読み取った原稿や、ホールドされているデータを読み出し、タッチパネルで色分けしたい部分を指定します。「デジタイザ分版」は、タッチパネル上で指定したエリアの外側と内側とが色分けされるように製版を指示します。



参考 「デジタイザ分版」を使用するにはソフトデジタイザおよびメモリーカードDM128CFが必要です。
(MD5650/5450はオプション)

「かんたん分版」の「デジタイザ分版」では、編集はできません。

写真が含まれている原稿を使う【エリア指定分版】【トレース分版】

「赤色分版」「書き込み分版」「デジタイザ分版」は、原稿モードが「文字」に限定されます。原稿に写真が含まれていても、写真処理ができないため、階調を表現したプリントができません。

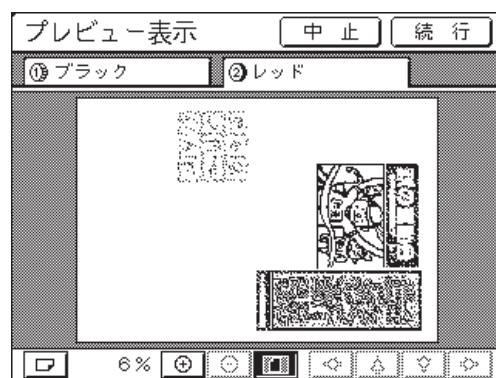
文字写真混在モードで製版した場合は、「エリア指定分版」か「トレース分版」を使ってください。

ミспリントを防ぎます 【プレビュー表示】

プレビューは「製版」をする前に、操作パネルのディスプレイで仕上がリイメージを確認できる機能です。

「かんたん分版」の結果も、色ごとに確認できるので、安心して製版・印刷ができます。

製版の各種設定をするときに「機能一覧画面」で「プレビュー表示」にタッチしてください。



「かんたん分版」のしくみと原稿作りのコツ

ここでは、「かんたん分版」によって、原稿がどのような基準で2つのドラムにそれぞれ振り分けられているのかを解説しています。「かんたん分版」のしくみを理解することは2色プリントを行うための原稿作りに役立ちます。

かんたん分版には、原稿を「濃度で分けるタイプ」と「エリア指定で分けるタイプ」の2タイプがあります。

原稿の濃度で分版する場合

書き込み分版／書き込み分版（インク）／赤色分版は、画像（スキャンした原稿）の濃度によって2つのドラムに振り分けています。

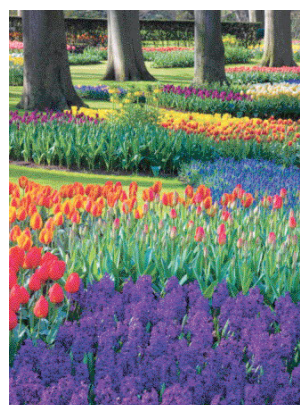
原稿上の、黒のような「濃い色」の画像は「ドラム①」に、赤などの黒よりも「薄い色」の画像は「ドラム②」に分けて製版します。

では、どんな色が濃い色や薄い色なのでしょう？
たとえば白黒写真は、実際にはカラーである部分が黒と白に“変換”されたもので、そこには色の違いはなく、黒または白とその間のグレーの濃淡による「濃度の違い」しかありません。

濃度で分版するタイプの「かんたん分版」は、2色の原稿をスキャナーが読み取ることで、モノクロ原稿に変換します。変換された原稿の、ある濃度以上を「ドラム①」に、ある濃度未満を「ドラム②」にそれぞれ分けています。



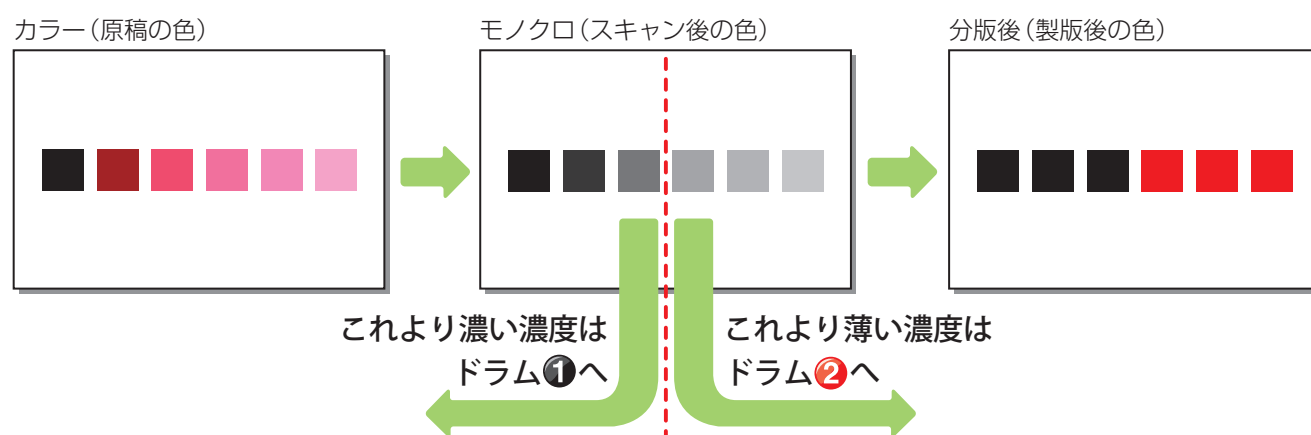
赤や黄、白、グレーなど
様々な色と濃淡がある



白と黒、その間のグレーの
濃淡のみ



つまり、「色」を「白黒」に変換したときの濃度（グレー）で、どちらのドラムに分けて製版するかを判断しています。そのため、2色に分けるためには、グレースケールに変換すると「黒」になる「濃い色」と、朱色やピンクなど、変換したら「グレーになる色」とを使って原稿を作る必要があります。



正しく分版するためのポイント

- 書き込みに使うペンや、2色で作成する場合の「赤」は、グレースケールに変換したときに「グレーになる色」を使用する。
- パソコンを使って紙原稿を作る場合は、「ゴシック系の書体」を使い、文字の大きさは「10.5ポイント」以上にする。

RISOGRAPH で2色プリントの表現が広がります。
RISOGRAPH で2色プリントの表現が広がります。

9pt

10pt

原稿上では黒い文字でも、面積が小さいために「薄い」画像と判断され、ドラム②でプリントされてしまいます。

RISOGRAPH で2色プリントの表現が広がります。 10.5pt

RISOGRAPH で2色プリントの表現が広がります。 11pt

RISOGRAPH で2色プリントの表現が広がります。 12pt

安心のボーダーライン

写真やカラー画像はエリアを指定するタイプの分版を使いましょう

分版の基準である濃度の境界線に近い色（濃度）は、両方のドラムで製版されてしまうこともあります。このような可能性がある原稿は、“エリアを指定するタイプ”の「エリア指定分版」か「トレース分版」を使って、どちらか一方のドラムだけで製版されるようにしてください。

エリア指定で分版する場合

「エリア指定分版」、「トレース分版」、「デジタイザ分版」は、色分けしたい部分を囲むことで、囲みの外側と内側を2つのドラムに振り分けています。

正しく分版するためのポイント

思い通りに分版するには、推奨のペンを使ってキチンと囲むことが大切です。
次のポイントを覚えて、上手に囲んでください。

濃い部分は作らない
×

線の太さは1~3mm
— 1 mm (2.25pt)
— 3 mm (4.5pt)
囲み線が1mmよりも細いと、囲みとして認識されません。また、3mmよりも太いと画像として製版・印刷されてしまいます。

文字やイラスト、画像から3mm以上囲みを離す

囲みと囲みの間は10mm以上あける
10 mm以上
○
×

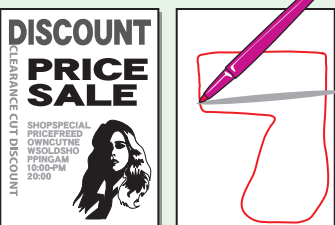
囲み線はつなぐ
○ ×

囲み枠は10mm以上
10 mm以上

推奨ペンは本機をお買い上げの販売会社（または保守・サービス会社）にお問い合わせください。

分版と筆記具の関係

原稿の作りかたと利用できる分版の種類、筆記具の関係は、次のようになります。

原稿の作りかた	プリント結果	分版の種類	指示に使う筆記具／赤の筆記具	製版・印刷の条件
パソコンなどで黒赤2色の原稿を作成 		赤色分版	パソコンでの指定 - 文字の大きさは10.5pt以上 - ゴシック体 - 赤は「純粋な赤」	原稿モード：[文字]のみ 不可 - 読取濃度選択 - ブックモード - 連写 - 変倍
手書きで書き込む 		書き込み分版 書き込み分版 (インク)	- 文字の大きさは10.5pt以上 - 推奨ペン - シャープペン(HB) 不可 - 赤ボールペン	原稿モード：[文字]のみ 不可 - 読取濃度選択 - ブックモード - 連写 - 変倍
推奨ペンを使って囲む 		エリア指定分版	- 推奨ペン - ペン幅1～3mmの薄めの赤ペン 不可 - 蛍光ペン - 赤ボールペン	原稿モード：制限なし 読取濃度：マニュアル 不可 - 連写 - 変倍 - ブックモード - AF(自動原稿送り装置)
同じサイズの紙にエリアを書き込んで、トレース用紙を作る 		トレース分版	- 推奨ペン - ペン幅1～3mmの薄めの赤ペン 不可 - 蛍光ペン - 赤ボールペン	原稿モード：制限なし 読取濃度：マニュアル 不可 - 連写 - 変倍 - ブックモード
スキャナーで読み取った原稿や本機のホールドデータを呼び出して、エリア指定する 		デジタイザ分版	ポイントペン	原稿モード：[文字]のみ 不可 - ブックモード - 連写

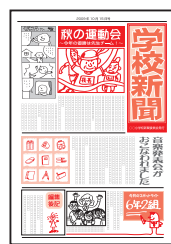
かんたん分版 操作のながれ

原稿作成から、印刷までの操作の流れを紹介します。詳しくは「取扱説明書」をご覧ください。



白黒でできた原稿の場合

- ▶ エリアごとに色分けできる原稿で、デジタイザが付いている場合は「デジタイザ分版の場合」へ
- ▶ デジタイザが付いていない場合は、下記手順 1 へ

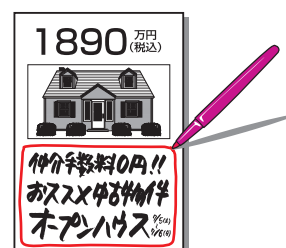


あらかじめ2色でできている原稿の場合

- ▶ 下記手順 2 へ

1 白黒原稿に色分けの指示をする

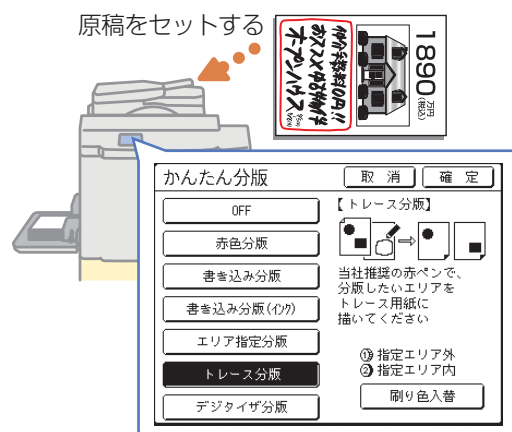
推奨ペンを使って、色分けしたい部分を囲ったり、書き込んだりして、かんたん分版用の原稿を用意します。



2 原稿をセットして、「かんたん分版」を設定する

原稿に応じた「かんたん分版」を選びます。

原稿をセットする

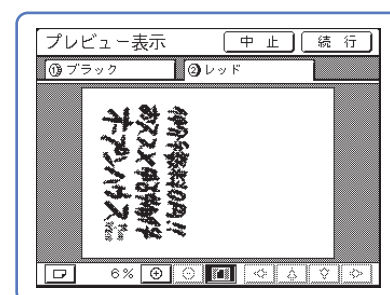


3 プレビューで確認する

機能一覧から【プレビュー表示】を選んで、＜スタート＞キーを押します。

原稿の読み取りが始まり、操作パネルにプレビュー画面が表示されます。

上部のタブ①ブラック ②レッドにタッチすると、それぞれのドラムでプリントされる画像を確認できます。



4 プリントする

画面の＜続行ボタン＞にタッチすると製版が始まります。

試し刷りが出てきたら、印刷枚数を入力して＜スタート＞キーを押してください。

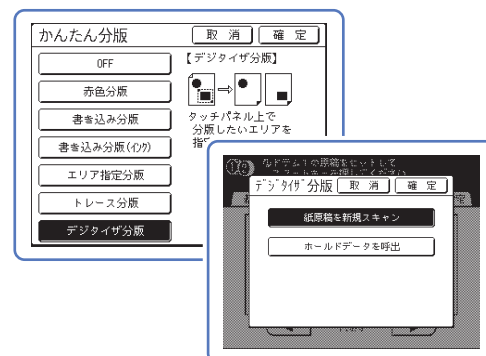


「デジタイザ分版」の場合

1 「かんたん分版」で[デジタイザ分版]を選ぶ

＜紙原稿をスキャンボタン＞※にタッチします。
＜スタート＞キーを押すと原稿の読み取りを開始し、編集画面が表示されます。

※ ホールドデータを使用する場合は、＜ホールドデータを呼出ボタン＞にタッチします。



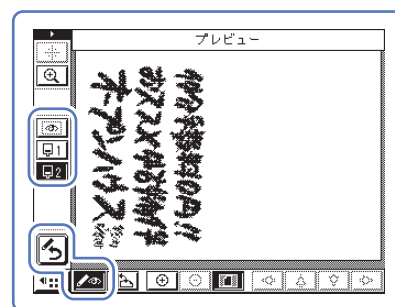
2 色分けするエリアを指定する

ポイントペンで または にタッチして、色分けしたいエリアを指定します。
エリア内がドラム②でプリントされます。



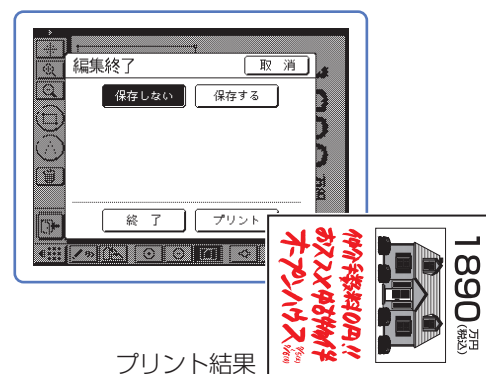
3 プレビューで確認する

にタッチすると、プレビュー画面に切り替わります。
編集ツールの と でそれぞれの版の画像が確認できます。
どちらか一方にタッチすると画面が切り替わります。
確認後、再度 にタッチして編集画面に戻ってください。



4 プリントする

編集画面で、 にタッチすると、編集終了画面が表示されます。
＜プリントボタン＞を選択し、＜スタート＞キーを押してください。製版が開始されます。
試し刷りが出てきたら、印刷枚数を入力して＜スタート＞キーを押してください。

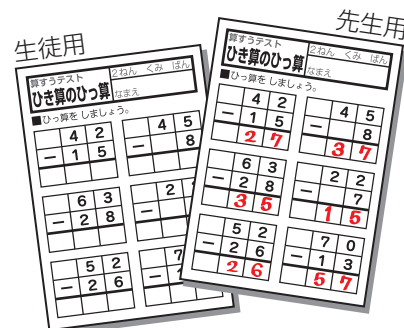


「かんたん分版」と「ドリル印刷」を組み合わせる

たとえば学校でテストを実施するときに、生徒用のテスト問題と先生用の回答の入ったテスト問題を、一度の操作で各組(グループ)用の枚数に分けてプリントすることができます。

同様な例では、役所での各種申請用紙と記入例などにも活用できます。

原稿は、1色でプリントされたテスト問題に、推奨のペンで回答を書き込んだものや、あらかじめ2色で作ったものを使用します。

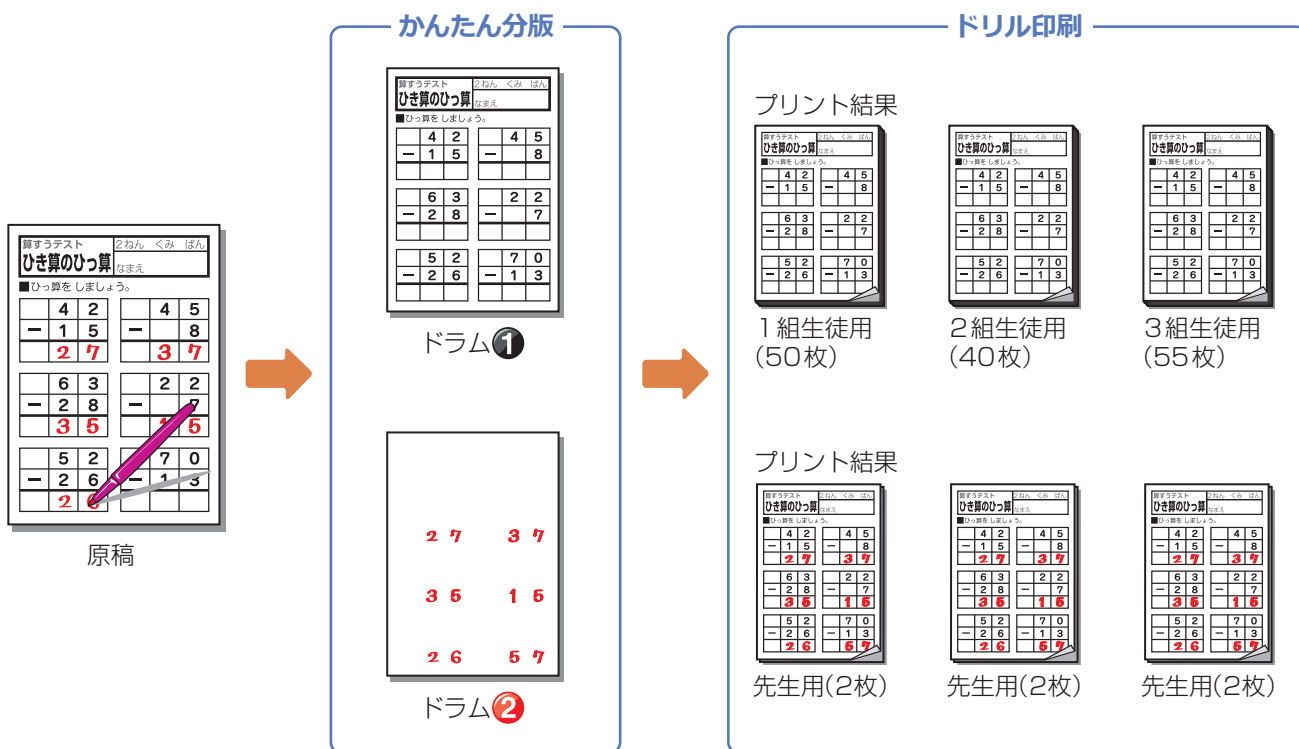


1 テスト問題に推奨のペンなどで答えを書き込む

2 「かんたん分版」を使って製版する

3 「ドリル印刷」で印刷する

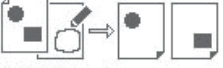
1組分の印刷が終わったら、先生用の回答入りテスト問題を印刷。引き続き、2組目の印刷を行う。



参考 「ドリル印刷」はプログラム印刷のひとつです。各組の生徒数と回答入りのテスト問題の必要枚数を登録しておくと、次回からは登録したプログラムを呼び出すだけでドリル印刷ができます。

「刷り色入替」でカラー反転

たとえば、原稿の黒い部分と赤い部分とを入れ替えてプリントしたいときなど、原稿作りまでさかのぼらなくても「刷り色入替ボタン」にタッチするだけで、原稿とは逆の配色でプリント(製版)できます。

かんたん分版		取 消	確 定
OFF	【トレース分版】		
赤色分版			
書き込み分版	当社推奨の赤ペンで、分版したいエリアをトレース用紙に描いてください		
書き込み分版(白)			
エリア指定分版	① 指定エリア外 ② 指定エリア内		
トレース分版	刷り色入替		
デジタイザ分版			

パソコンからの2色プリント

ここでは、プリンタドライバでの「分版」について説明しています。

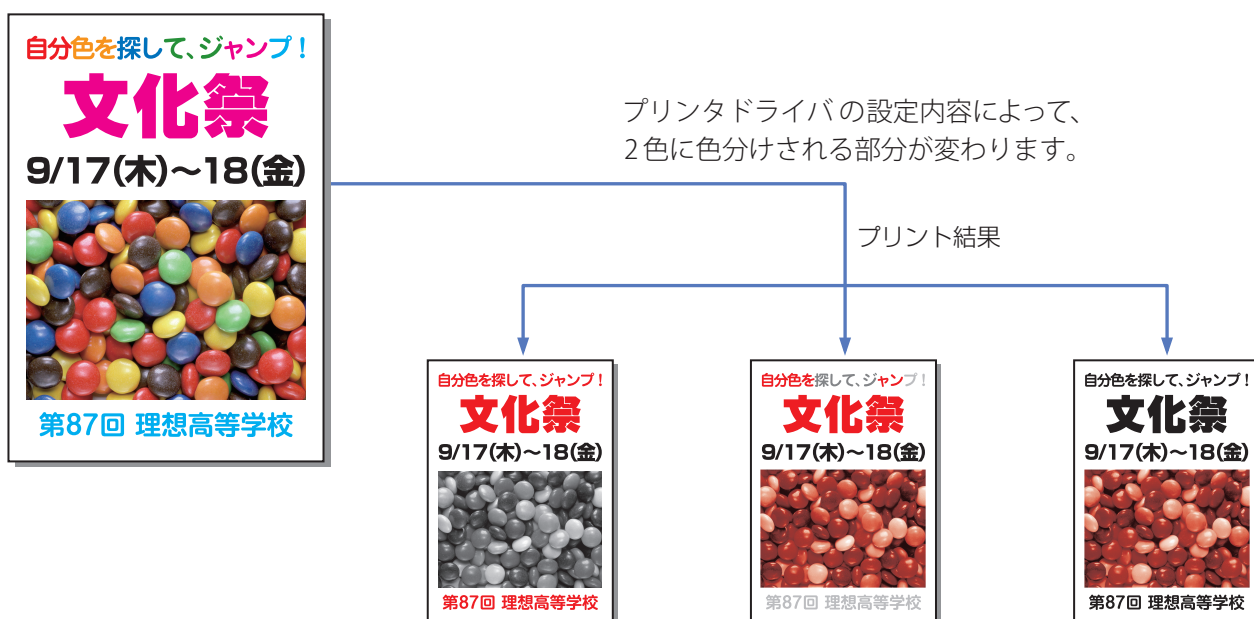
本機での2色プリントにパソコンを利用することで、2色プリントの表現がさらに広がります。

説明にあたり、本機のドラム①には黒、ドラム②には赤のインクが装備されていることを前提とします。

プリンタドライバによる「2色プリント」とは

紙原稿を使った「かんたん分版」では、濃度とエリア指定といった2種類の色分け方法で2色プリントしていますが、プリンタドライバを使うことで、かんたんに分版基準が切り替えられ、様々な色分けの2色プリントができます。

カラーの原稿



2色プリント用の原稿は、使用するインクと同色の2色で作ることをお勧めしますが、3色以上の色が使われていたり、カラー画像や写真などを含む場合は、使用するドラムの色と分版条件の組み合わせによってプリント結果は様々です。本機のプリンタドライバは、あらかじめ多くの分版条件を選択肢として持っています。それぞれの分版条件がどのようにプリント結果へ作用するのかを理解することが、思い通りに2色プリントするためのポイントとなります。

プリンタドライバの設定

[分版] タブにある [2 色プリント] で設定します。



• 分版イメージ

[2 色プリント] の設定条件に応じて、[印刷物] 画像が変化し、印刷イメージを確認できます。

• ドラムとインク色

ドラム①、②の色が表示されています。[更新] ボタンを押すと、セットされているインクの色が表示されます。

• 分版方法

原稿を2色に分版するときの方法と条件を設定します。

「分版」の方法

ここでは、「おすすめ分版 (オート)」と「マニュアル分版」について説明します。

おすすめ分版 (オート) : 原稿データの色と、本機にセットしている2本のドラム色の組み合わせから、最適と思われる条件をプリンタドライバが自動的に設定してプリントします。原稿にカラー写真がある場合は、擬似カラーでプリントします。

マニュアル分版 : 黒 (ドラム①) で印刷する部分と、赤 (ドラム②) で印刷する部分を、「文字・イラスト」と「写真」とで別々に設定できます。「おすすめ分版 (オート)」では思うように色分けされないときに使ってください。「マニュアル分版」の設定ひとつで、同じ原稿でも異なった2色プリントになります。

☞ P. 20 「「マニュアル分版」の上手な使いかた」

参考 分版方法には、上記2種類の他に、「ドリル印刷分版」と「分版ページ合成」があります。

☞ P. 22 「その他の分版」

原稿作りのポイント(2色プリント)

2色プリント用の原稿を作る際に、次の3つのポイントを押さえることが、うまく2色プリントするためのコツになります。

Point 1 原稿は、実際にプリントする2色で作る

「おすすめ分版(オート)」は、セットされているインクの色を元に自動で分版するので、セットされたインクと同じ色で原稿を作れば、イメージどおりの2色プリントができます。



Point 2 「写真は1色でプリントしたい」そんなときは、原稿で1色にしておく

写真を2つのドラムのどちらか1色でプリントしたいときは、原稿を作る時点で、写真をプリントしたいどちらかの色に変換しておきます。



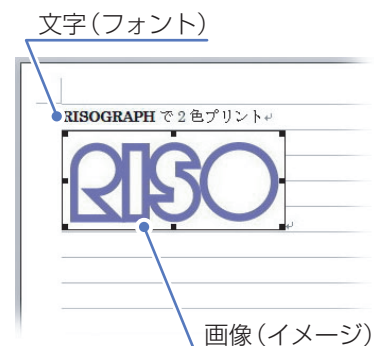
「マニュアル分版」を使えば、カラー写真のままだでも、どちらか片方のドラムで1色プリントすることができます。



Point 3 文字と写真とでは、分版するときの条件や処理方法が異なることを考慮する

分版するとき、原稿のデータが文字(フォント)なのか写真などの画像(イメージ)なのかで、分版する際の“処理”のしかたを使い分けています。「画像」と判定された部分は「写真」の条件で処理されます。

「文字」と判定されるものは、原稿の段階でテキスト情報を持っている場合に限られます。



参考 「文字・イラスト」と「写真」の条件

文字 : テキスト情報を持ち、フォントの種類が変更できる状態のものを指す

イラスト : CADやドローイングソフトで書かれたベクトル図形を指す

写真 : Jpeg/Tiff/Bmp/Pngなどの画像データを指す

「文字」や「イラスト」は、ベクトルデータとして扱われるのに対して、「写真」は画像データとして扱われます。

「マニュアル分版」では、「文字・イラスト」と「写真」とで、別々の分版条件を設定することができます。

おすすめ分版(オート)の場合

	文字	イラスト	写真
原稿			
プリント結果			

参考 「文字」や「イラスト」は、ドラム①またはドラム②のいずれか1色※でプリントします。
※ 大きな文字や、加工した文字は分版されて、2色の重ね刷りになることがあります。

薄い色の文字をはっきり印刷したいときは、[イメージ処理]タブにある[文字処理]で[強制ベタ]を選択してください。

「写真」は、分版をして2色重ね刷りで原稿の色を再現します。

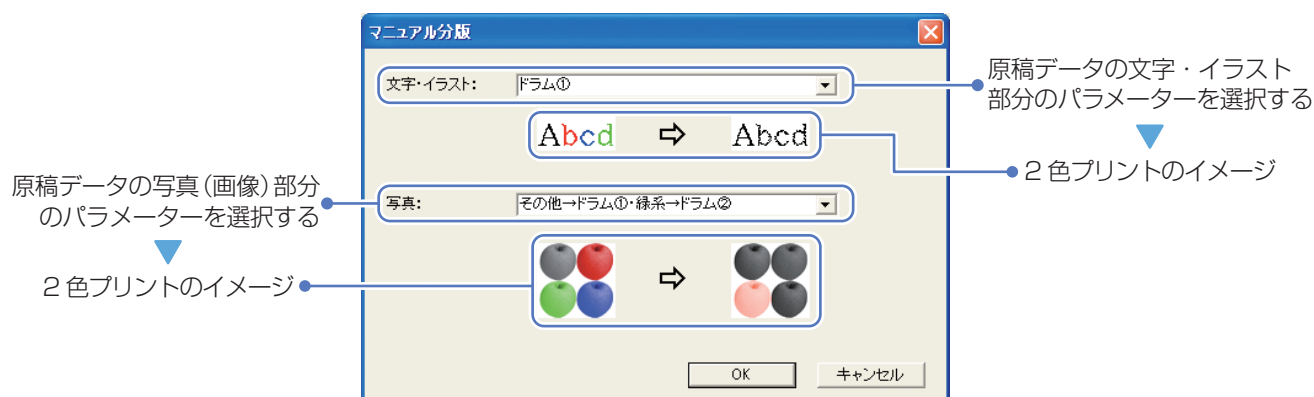
文字処理:

- ☐ 誤差拡散
- ☐ 網点処理
- ☒ 強制ベタ

「マニュアル分版」の上手な使いかた

分版条件の設定

「マニュアル分版」では、「文字・イラスト」部分と「写真」部分それぞれを、異なる条件で分版設定できます。
[分版]タブで「マニュアル分版」を選択し、[詳細設定]ボタンをクリックすると、分版するための条件が設定できます。
[文字・イラスト]、[写真]リストそれぞれに分版する際の条件が用意されており、その条件のひとつひとつをパラメーターといいます。
各リストボックスの下には、原稿と2色プリント後のイメージが表示されています。このイメージは、選んだパラメーターに応じて変化します。



上記のマニュアル分版画面の例では、次のようなプリント結果になります。

文字・イラスト：ドラム①

文字とイラストは、原稿の色に関係なくすべてドラム①でプリントされる

写 真：その他→ドラム①・緑系→ドラム②

写真(画像)の緑系の色の部分だけがドラム②でプリントされ、その他の色の部分はドラム①でプリントされる



原稿データ

印刷結果は、本機にセットされているドラムの色によって異なります。

ドラム①：黒
ドラム②：緑の場合



ドラム①：黒
ドラム②：赤の場合



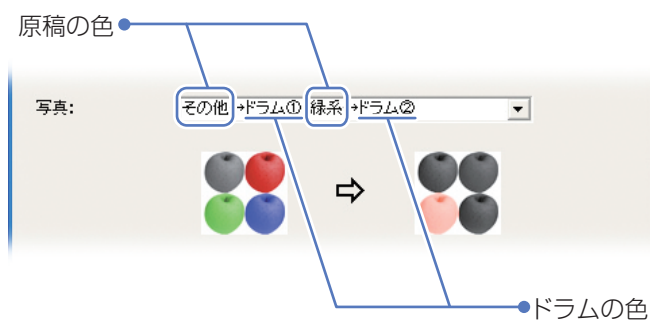
カラー写真の2色プリントは、写真で多く使われている色や素材と、パラメーターとの組み合わせによって仕上がりが変わります。カラーの原稿を2色で表現するには、多少の慣れや知識が必要です。

原稿の色味によって、各パラメーターがどのように作用するのかを理解することが、「マニュアル分版」を上手に使うためのポイントになります。

パラメーターと原稿の色、製版するドラムとの関係を、巻末にて一覧表にしてあります。

👉 P.26 「「マニュアル分版」のパラメーターリスト」

参考 🖋️ パラメーターの“→”の左側は原稿の色で、右側は使うドラムの色を表しています。



擬似カラーとは

カラー写真(Jpeg/Tiff/Bmp/Pngなどの画像データ)部分を2色で再現しようとする方法です。

「おすすめ分版(オート)」では、セットされているドラム2色で最適と思われる分版をします。ただし、緑系が多い風景写真や赤系が多い果物の写真のように、写真の色味によっては、あえてプリンタドライバにまかせず「マニュアル分版」を使い、お好みに調整することでキレイに見える場合があります。

元画像(フルカラー)



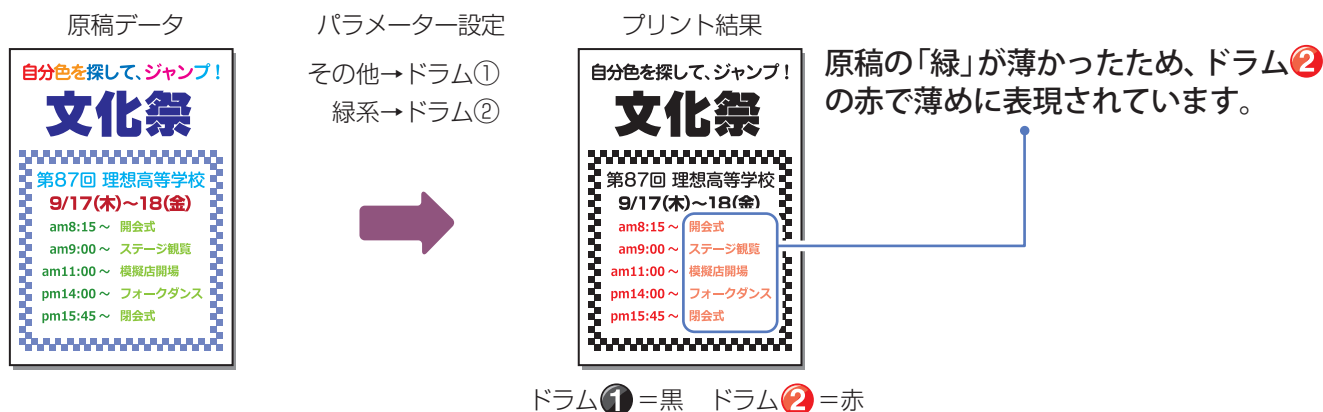
黒と赤による擬似カラー



パラメーター選びのポイント

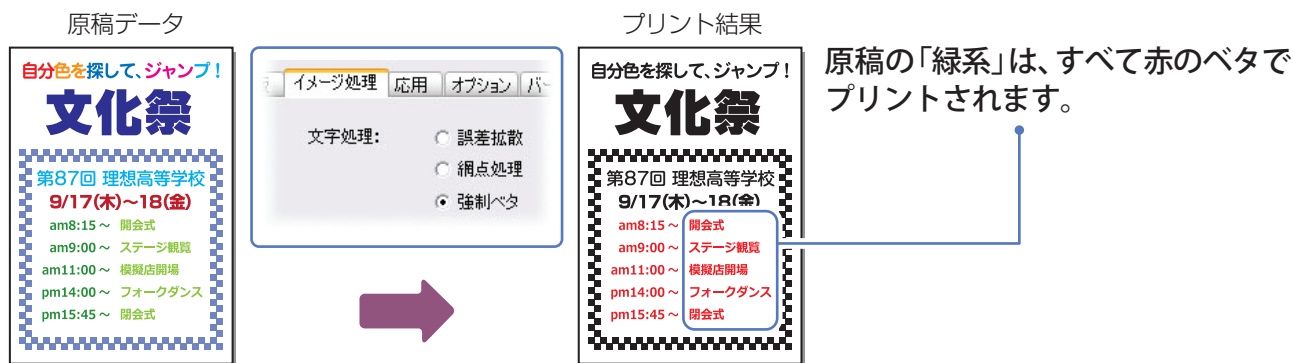
特定の1色だけをカラーでプリントしたいときは

複数の色が使われている原稿から、特定の1色だけをカラーでプリントしたいときは、「その他→ドラム①・緑系→ドラム②」など、“その他”が使われているパラメーターを使います。特定の色をドラム②へ、特定の色以外のすべての色を“その他”としてドラム①に振り分けることで、目立たせたい色だけがカラーになる2色プリントができます。



薄い部分をベタにしたいときは

「文字・イラスト」として扱われるデータに限り、[イメージ処理]タブの[文字処理]で[強制ベタ]をチェックすることでベタにできます。



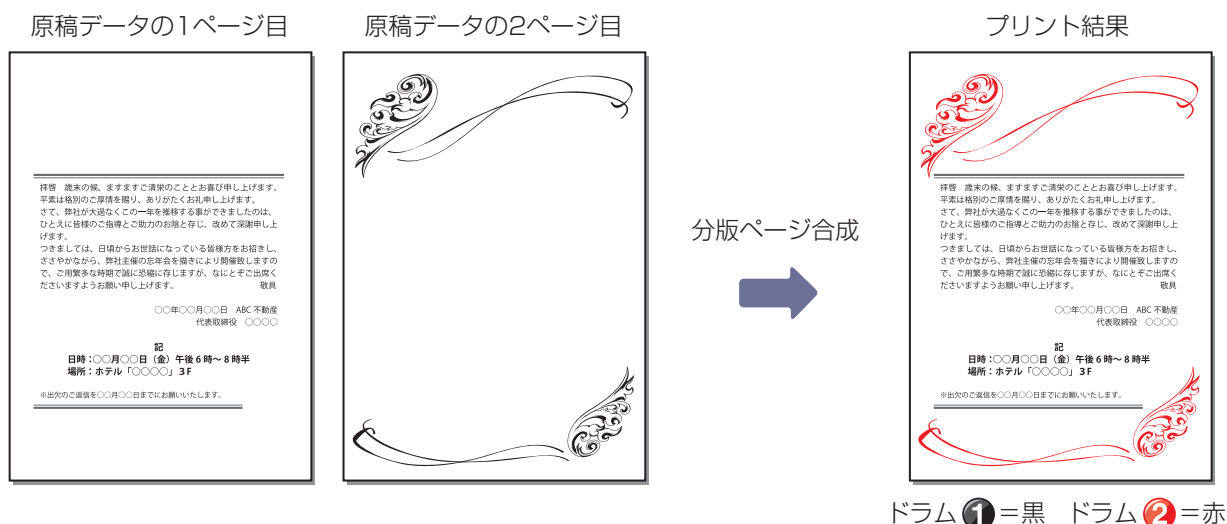
写真(画像)部分を擬似カラーにしたいときは

[写真]のパラメーターリストから「その他」が使われていないパラメーターを選んでください。

その他の分版

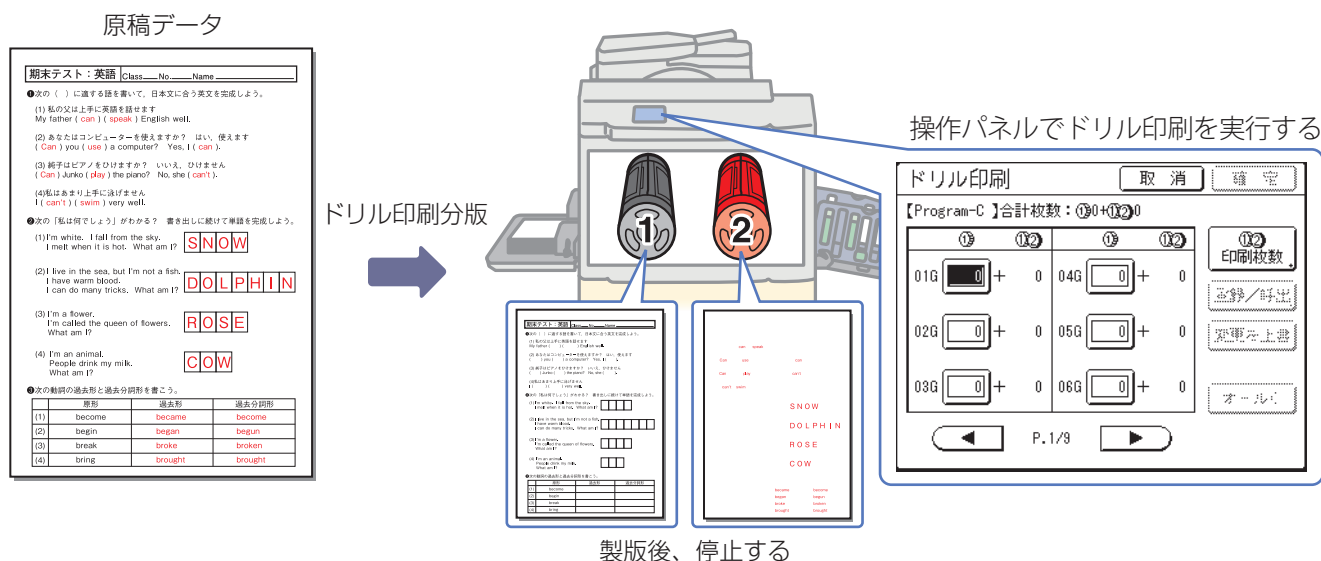
分版ページ合成

原稿の奇数ページをドラム①で、偶数ページをドラム②でそれぞれ製版する機能です。
あらかじめ、2色の原稿データが各ページ2版に分けて作られているときにお使いください。
「分版ページ合成」は、[分版]タブの[分版方法]から選んでください。



ドリル印刷分版

原稿データを自動的に2色に分版し、データを本機に送信し製版までを実行する機能です。本機は製版後停止しますので、印刷部数の指定・印刷などの操作は、本機の操作パネルのドリル印刷画面で行ってください。



本機は、「孔版」印刷機です。

「孔版」とは、孔(あな)の版という意味です。

印刷の元となる版(マスター)に孔(あな)を開けて、その孔からインクを押し出して印刷をしています。
マスターに孔を開けて「版」を作ることを「製版」と呼びます。

版画で有名な浮世絵は、木版画です。

木を彫って作った「版」に絵の具を塗って、印刷をしています。

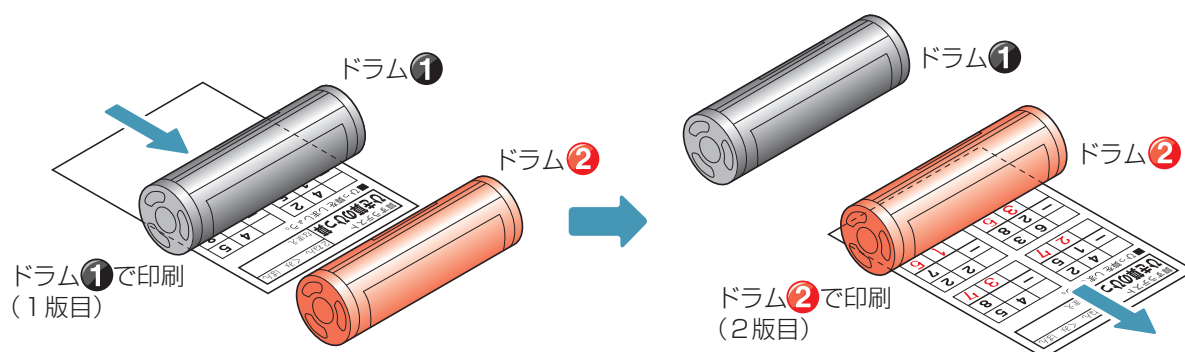
色の数だけ「版」が必要です。1枚の絵を印刷するために、色ごとに版を分けて作らなければなりません。
この「版を分ける」ことを「分版」と呼びます。

また刷り重ねた回数で、3版刷り、4版刷りと呼びます。

本機の「かんたん分版」は、この版を分ける作業をかんたんに行う機能です。

本機には2本のドラムがあります。

つまり版を2つに分けて、2版刷りをしていることになります。



色を変えるときは、ドラムを換える

印刷の色は、1版1色です。「版」は「マスター」という薄いフィルムで、ドラムの外側に巻きつけられています。

インクはドラムの中に入っていて、マスターの表面から出るようにドラムの内側全体に塗られています。
インクの色を変えたいときには、ドラムごと交換してください。

インクボトルだけを交換して、印刷することはできません。

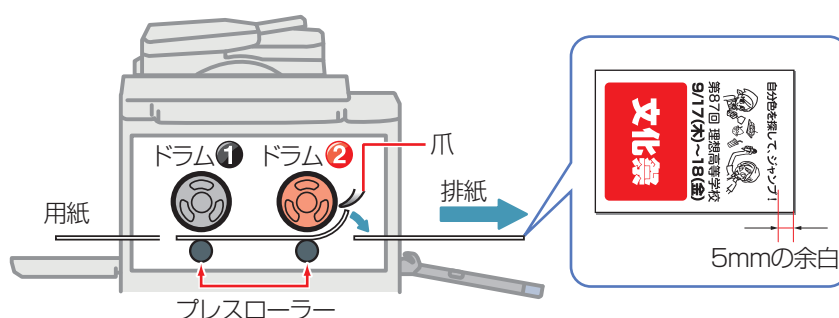
原稿を作るときは、印刷用紙よりも少し小さめに

5mm程度の余白が必要です

本機では、印刷用紙がドラムの下を通ることで印刷されます。

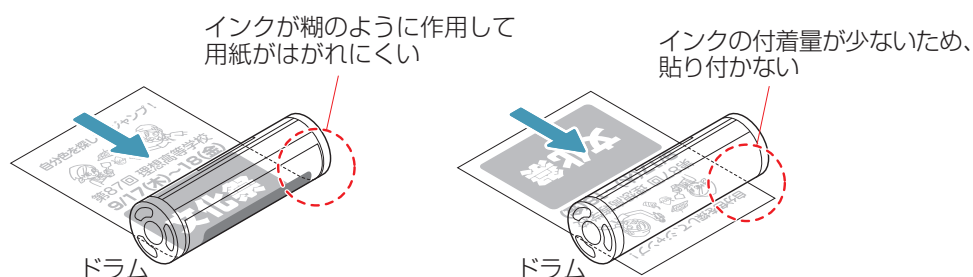
このとき、プレスローラーが印刷用紙をドラムに押し付けているため、用紙がドラムに貼り付いた状態になります。そこで、用紙とドラムとの間にツメを差し込み、ドラムから用紙を引き離しています。このような仕組みから、印刷用紙の先端がドラムに貼り付くことのないよう、原稿を作る際には5mm程度の余白を作る必要があります。

ツメを差し込む隙間がないと、用紙がドラムに貼り付いたままになり、「紙詰まり」を引き起こしてしまいます。このトラブルは「舞い上がり」と呼びます。



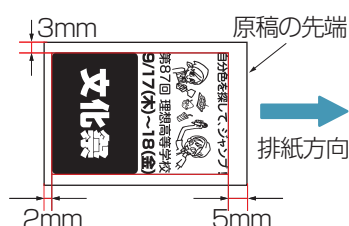
原稿の上部にベタ要素があるときは逆向きに

原稿の先端に十分な余白があっても、原稿の上部に大きなベタ（塗りつぶし部）があると、インクが糊のように作用してしまい、排紙しづらくなります。このような原稿は、逆向きに製版することで「舞い上がり」を防止することができます。

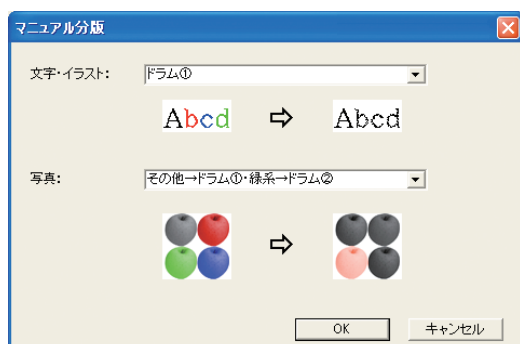


周囲の余白について

本機では原稿を読み取り後、印刷用紙を基準に天地左右それぞれ数ミリの余白ができるように製版しています。印刷用紙サイズいっぱい使って作られた原稿の場合は、その分カットされて製版されます。このような原稿のときは、製版する際に「周囲余白」を使用してください。「周囲余白」を使用することで95%に縮小して製版され、原稿がカットされることを防ぎます。



「マニュアル分版」のパラメーターリスト



ここでは、プリンタドライバの「マニュアル分版」を使うときに選ぶパラメーターを、原稿で使われている色と、各パラメーターとの組み合わせによってどのように製版・印刷されるのかという視点でリストにまとめたものです。

「マニュアル分版」する際の、パラメーター選びの参考にしてください。

: 文字・イラスト用のパラメーター
 : 写真用のパラメーター
 : 共通のパラメーター
 ○ : ベタ △ : アミ × : 製版しない

パラメーター	原稿色	文字・イラスト		写真	
		製版・印刷状態		製版・印刷状態	
		ドラム①	ドラム②	ドラム①	ドラム②
ドラム①	黒	○	×	○	×
	赤	△	×	△	×
	青	△	×	△	×
	緑	△	×	△	×
ドラム②	黒	×	○	×	○
	赤	×	△	×	△
	青	×	△	×	△
	緑	×	△	×	△
有彩色→ドラム① 無彩色→ドラム②	黒	×	○		
	赤	○	×		
	青	○	×		
	緑	△	×		
赤→ドラム① 青黒→ドラム②	黒	×	○		
	赤	○	×		
	青	×	△		
	緑	×	△		
無彩色→ドラム① 有彩色→ドラム②	黒	○	×		
	赤	×	○		
	青	×	○		
	緑	×	△		
青黒→ドラム① 赤→ドラム②	黒	○	×		
	赤	×	○		
	青	△	×		
	緑	△	×		
赤系→ドラム① 黒→ドラム②	黒			×	○
	赤			○	×
	青			×	△
	緑			×	△
赤系→ドラム① 青系→ドラム②	黒			○	○
	赤			○	×
	青			×	○
	緑			△	△
赤系→ドラム① 緑系→ドラム②	黒			△	○
	赤			○	×
	青			△	△
	緑			×	○

原稿の黒い部分はドラム②で、赤・青・緑などの色部分はドラム①でプリントされます。ただし、緑はドラム①の色でアミ色表現されます。

: 文字・イラスト用のパラメーター
 : 写真用のパラメーター
 : 共通のパラメーター
 ○ : ベタ △ : アミ × : 製版しない

パラメーター	原稿色	文字・イラスト		写真	
		製版・印刷状態		製版・印刷状態	
		ドラム①	ドラム②	ドラム①	ドラム②
黒→ドラム① 赤系→ドラム②	黒			○	×
	赤			×	○
	青			△	×
	緑			△	×
青系→ドラム① 赤系→ドラム②	黒			○	○
	赤			×	○
	青			○	×
	緑			△	△
緑系→ドラム① 赤系→ドラム②	黒			○	△
	赤			×	○
	青			△	△
	緑			○	×
赤系→ドラム① その他→ドラム②	黒	×	○	×	○
	赤	○	×	○	×
	青	×	△	×	△
	緑	×	△	×	△
青系→ドラム① その他→ドラム②	黒	×	○	×	○
	赤	×	△	×	△
	青	○	×	○	×
	緑	×	△	×	△
緑系→ドラム① その他→ドラム②	黒	×	○	×	○
	赤	×	△	×	△
	青	×	△	×	△
	緑	○	×	○	×
黒→ドラム① その他→ドラム②	黒	○	×	○	×
	赤	×	△	×	△
	青	×	△	×	△
	緑	×	△	×	△
グレースケール→ドラム① その他→ドラム②	黒			○	×
	赤			×	△
	青			×	△
	緑			×	△
その他→ドラム① 赤系→ドラム②	黒	○	×	○	×
	赤	×	○	×	○
	青	△	×	△	×
	緑	△	×	△	×
その他→ドラム① 青系→ドラム②	黒	○	×	○	×
	赤	△	×	△	×
	青	×	○	×	○
	緑	△	×	△	×
その他→ドラム① 緑系→ドラム②	黒	○	×	○	×
	赤	△	×	△	×
	青	△	×	△	×
	緑	×	○	×	○
その他→ドラム① 黒→ドラム②	黒	×	○	×	○
	赤	△	×	△	×
	青	△	×	△	×
	緑	△	×	△	×
その他→ドラム① グレースケール→ドラム②	黒			×	○
	赤			△	×
	青			△	×
	緑			△	×

